

しだけ入り込んだら、腰までの渡渉となった。16:10登山路に上がり、下降終了。

[タイム] 下降開始(13:10)→滝沢川本流(15:35)→幽の沢出合(16:05)→林道(16:25)→滝沢(16:55)

## 八溝山周辺の沢

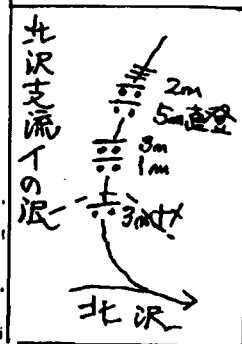
### 北沢支流イの沢

1989年7月8日

さて、北沢流域の支沢の遡行調査の最後を飾って、イの沢(仮称)に入る。この沢は当初調査予定に入れてなかったのであるが、北沢左岸の踏跡のすぐ上部に連続して小滝をにかけているので、急遽遡行対象とした。でも結局のところ、踏跡から見えていた小滝を直登したら、その上ですぐ水もなくなってしまう短い沢であった。小滝そのものは、適当にスタンスがあり、楽に直登できる。

(記)

[タイム] 遡行開始(12:00)→終了(12:10)→山本不動尊(12:30)



### 北沢支流二の沢右俣、左俣

1989年7月8日

八溝山系宮川流域北沢の支流群の調査も、いよいよ最終段階。今日ですべて完了させるつもりである。まだ人気のない山本不動尊を早朝5時に出発。25分で二の沢(仮称)出合に着く。すぐに遡行開始。

まず出だしの4mナメ滝を直登。よく磨かれているが、フリクションをきかせて直登する。花崗岩はフリクションがよくきいて、気持が良い。そのすぐ上の3

mもよく磨かれており、左岸の小さなスタンスを使って越える。幸先が良い。

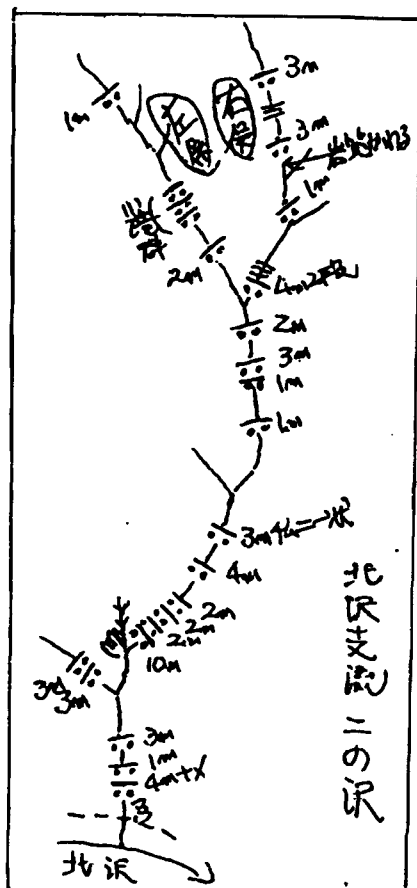
しばらく滝が途絶えて、このまま終わってしまうのかと心配していたら、沢が右にカーブする所に、10mの滝が出てきた。2段になっており、上段はナメ滝となっている。まずは右岸から取り付く。そして、左岸に渡り、直登。コケがついていてスリップしそうになり、ちょっと緊張した。このあとよく磨かれた小滝が続き、4m滝となる。ここは登れない。しかし、左岸から簡単に越えられた。

そのあとしばらくは平凡。やがてよく磨かれてホールドの少ない3m滝となる。水の流れの中に足を入れて直登する。そのすぐあとで二俣。右俣の方が水量は多い。トの沢(仮称)の下降を予定しているので、まず右俣を偵察してから左俣を遡行することにして出発。

出だしは4m 2段の滝。簡単に越える。そのあとは沢が急に細くなった。やがて岩質が変わる。榎倉破砕帯を構成する黒い岩。そして、岩屑のつまった細い溝状の流れへと変わってゆく。もう源流である。水の流れのなくなったところで引き返す。

左俣は平凡なまま瀬頭となってしまった。1m以下の小滝が5個連続するあたりにちょっとした変化が見られただけ。途中、いつしか岩質が変わり、破砕帯の黒い岩となっていた。右岸の尾根めざして急な斜面を登る。(記)

[タイム] 山本不動尊(5:00)→この沢出合(5:25)→二俣(6:00)→右俣終了(6:10)  
→二俣(6:20)→左俣終了(6:40)



## 北沢支流ホの沢

1989年7月8日

ホの沢(仮称)も小さな沢である。しかし、出合すぐに7mの滝をかけている。11:10遡行開始。シャワーで直登して上に出る。そのあとしばらくは小滝だけだ